



は が ほど くらい

文法を楽しく!!

ぶん ぼう たの

「よう」(1)

今回から「ようだ」「ように」「ような」として使われる「よう」について勉強します。まず、次の詩を読んで「よう」がいくつかあるか見つけてください。(これは私が小学生の時に書いた詩に、手を入れたものです。)

夜道を一人で歩いていた。
うしろから誰かがつけてくるような気がする。
ピタピタピタ・・・

私が速く歩くと、後ろの人も速く歩く。
ゆっくり歩くと、後ろもゆっくり歩く。

誰だろう。
男の人のようだ。こわい・・・
後ろを振り返って、ついてこないように言おうか。
それもできない。

こんなことにならないように、もう少し早く帰宅すればよかった。
母が言ったように、早く帰ればよかった。
・・・もう少しで家だ。何も起こらないように祈る。
あ、家に着いた。
家が天国のように見える。ここまで来れば安心だ。
後ろを振り返ってみる。
誰もいない・・・
なあんだ、自分の足音だったのだ。

(蛇足ですが、この詩は「こわい気持ちがよく出ている」と言って、先生にほめられました。)



さて、この詩の中には「よう」が7つ出てきます。意味用法の似ているものを出てきた順に並べると、次のようになります。

- うしろから誰かがつけてくるような気がする。(推量)
- 男の人のようだ。(推量)
- ついてこないように言おうか。(指示・命令)
- 何も起こらないように祈る。(祈願・願望)
- こんなことにならないように、もう少し早く帰宅すればよかった。(目的(結果))
- 母が言ったように、早く帰ればよかった。(例示)
- 家が天国のように見える。(たとえ(比喩・比況))*1)

意味用法としては、a bは頭の中でそうじゃないかと考える推量、cは「～ように言う」の形での指示や命令、dは願望・祈りを表しています。eは「～ように」が目的(結果)を表し、「こんなこわいことにならないために」という意味を、fは母が言ったことを例として示しています。最後のgは、家を天国にたとえている比喩・比況の「よう」になります。以上いくつか他の重要な意味用法ものを加え、まとめると、次のようになります。

意味用法	主な形	「よう」の前に来る語
1 推量	ようだ ように思う／ように感じる ような気がする／ような感じがする	動詞*2の普通形 イ形容詞(い/かった/くない/ くなかった) ナ形容詞(な/だった/じゃない/ じゃなかった) 名詞+の/だった/じゃない/ めいし
2 たとえ(比喩・比況)	ようだ ように思う／ように感じる ような気がする／ような感じがする	動詞の普通形 名詞+の/だった/じゃない/ じゃなかった
3 指示・命令	ように言う／ようにしてください	動詞の普通形
4 祈願・願望	ように祈る／ように願う	動詞の普通形
5 変化	ようになる	動詞の普通形
6 努力・勧告	ようにする／ようにしてください	動詞の普通形
7 目的(結果)	ように～	動詞の普通形
8 例示	ように～ ような名詞2に/を/は～etc.	動詞の普通形*3 名詞1+の*3
9 前置き	ように～	動詞の普通形 ～の*4

(動詞の普通形は「～る/～た/～ない/～なかった」を指す。また、「じゃない/じゃなかった」は「ではない/ではなかった」にも置き換えられる。)

表の順序に従って、今回「よう」(1)では「推量」と「たとえ(比喩・比況)」の「ようだ」について考えます。

1. 「推量」の「ようだ」について

1本の木にピンクの花が咲いています。それを見てあなたは、はっきり自信はないが、形や色、そして季節が春であることなどを考えて、「たぶん桜の花だろう」と想像します。この想像が「推量」と呼ばれるもので、日本語にはいろいろな言い方があります。

- (1) これは桜の花だと思う。
- (2) これは桜の花だろう。
- (3) これは桜の花にちがいない。
- (4) これは桜の花かもしれない。
- (5) これは桜の花のようだ。

(1)～(5)は、「これは桜の花だ。」という断定的な言い方をしないで、相手に婉曲にやわらかく伝える場合にも使われます。(1)～(4)が話し手の主観に頼っているのに対して、(5)の「ようだ」は、もう少し客観的な情報

(花の形、色、匂い、自分の過去の記憶など)に頼って、判断しています。

「桜の花のようだ」は「ようだ」が名詞につながった例ですが、動詞の場合は、「ようだ」の前に普通形が来ます。

- (6) 桜の花が咲いたようですね。
 (7) 桜の花はまだ咲かないようだ。
 (8) 桜の花はもう散ってしまったようだ。

動詞の例をもう一つ挙げましょう。あなたは朝起きた時、頭痛がありました。少し寒気もします。そんな時、あなたは言うでしょう。

- (9) 風邪を引いたかもしれない。
 (10) 風邪を引いたのかな。
 (11) 風邪を引いたにちがいない。
 (12) 風邪を引いたようだ。
 (13) 風邪を引いたらしい。

(13)の「らしい」は、「彼は今日は仕事を休むらしい」のような伝聞的な推量を表しますが、「ようだ」と同じように、自分の体の症状に対する推量にも使うことができます。



「ようだ」は多くの場合、「ように思う／ように感じる／ような気がする／ような感じがする」と言うこともできます。

- (14) 風邪を引いたように思う／感じる。
 (15) 風邪を引いたような気がする。

これらは「ようだ」とほぼ同じ意味を表しますが、「ように感じる」「ような気がする」は「ように思う」よりは漠然とした感覚が伴います。

2. 「たとえ(比喩・比況)」の「ようだ」について

日本で桜を見たあなたが、自分の国でピンクの花が咲いているのを見たとき、花の名前は分かりませんが、次のように言いました。

「きれいだな。日本の桜の花のようだ。」

この「(日本の)桜の花のようだ」は、本当は桜の花じゃないけれど、「桜の花に似ている」という意味になります。

このように実際はそうではないけれど、何かにたとえて言う時に「ようだ」が使われます。

- (16) これは日本の桜の花のようだ。
 (17) これは日本の桜の花に似ている。
 (18) これは日本の桜の花そっくりです。
 (19) これは日本の桜の花みたいだ。

(19)の「みたいだ」は「ようだ」より話しことば的な言い方で、推量の意味としても使われますが、ここでは「たとえ(比喩・比況)」を表しています。カジュアルな会話で用いられ、特に女性は「だ」を省略することが多いようです。

- (20) このプラスチックのハンバーグは本物みたい。
 (21) オーディションに受かるなんて夢みたい。

次の(22)～(23)は「ようだ」「みたいだ」に動詞がつながった例ですが、「たとえ(比喩・比況)」を表す「ようだ」も、(24)(25)のように、「ように思う／感じる」「ような気／感じがする」と言うこともできます。

- (22) 夢を見ているようです。
 (23) 夢を見ているみたいです。
 (24) 夢を見ているように思う／感じる。
 (25) 夢を見ているような気／感じがします。

注

- *1: 比喩・比況とも「一つの事物を他の事物にたとえること」を指します。「～ようだ」「～みたいだ」を用いる「たとえ」を特に比況と呼びますが、本文では比喩＝比況ととらえています。
- *2: ここでは「動詞」の中に補助動詞「ている・である・てしまうetc.」などを含めます。
- *3: 参考のために、「例示」の例文を挙げます。
 (26) 私が言うようにやってください。
 (27) あなたのような人には会ったことがない。
名詞1+の 名詞2
- *4: 参考のために、「前置き」の例文を挙げます。
 (28) 皆さんご存じのように、富士山は世界文化遺産に登録されました。
みな 名詞 さん

このコーナーの担当者：市川保子(日本語国際センター客員講師)

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。